

熊高四五会会報

卒業50周年
記念号

発行：
熊高45会事務局
info@45kai.com

HomePage:
https://www.
45kai.com

ご挨拶・会報発行に関して

四五会の皆様、如何お過ごしでしょうか。新型コロナウイルス感染症のパンデミックが起きてからやがて三年目になろうとしています。第七波が終息仕掛けている状況の中で、今この原稿を書いています。

コロナ禍で、私達の生活と世情が一変してしまいました。私には高校三年になる孫娘がいますが、卒業アルバムの話になった時びっくりしました。卒業写真はマスクを外して撮ると、完成したアルバムを見て「この人は誰？」「先生はこんな顔だったんだ」。なるほど、孫娘は高校入学した時から、先生と友人をマスク顔でしか見てなかったのです。食事は全員黒板の方を見て黙食だし、プールサイドではマスク着用、プールに入ったらコンタクトを外すと顔は見えないと言っています。私は提案しました。「マスク顔とマスク無しの顔写真を対照にしてアルバムを作ったら」



孫娘は「一応学校に言ってみる」とのこと。修学旅行無し、文化祭無し、体育祭無し、クラス対抗無し、一体どんな卒業アルバムになるのでしょうか。

四五会の活動もコロナ禍で苦しめられています。東京と関西での同窓会も中止や延期で大変残念な事になっています。二年前に熊高卒業五十周年記念同窓会を熊本で計画しましたが、残念ながら延期になりました。でもこの件は来年の三月二十九日に開催することに決定し、皆様にはお知らせしているところです。予定に入れていただき、当日は多くの仲間に参加してほしいと思っています。（社会がウィズコロナで普通の生活が出来る状況で有ることを祈るだけです）

さて、四五会の会報を久しぶりに発行しました。古希を迎え、皆様がどんな人生を歩んでいるのかなど、近況報告や昔懐かしい思い出の場面を会報に掲載し、旧友との触れ合いの場にしたいたいと思っています。記事の募集期間が短かったのに皆様のご協力に楽しい立派な会報が出来上がりました。

お礼を申し上げます。コロナ禍そして自然災害が多発しています。皆様がお元気であることを祈り致します。（四五会会長 木村 秀崇）

大同窓会in京都 ルネッサンスツアーの思い出

二〇一八年二月二十一日～二十三日
同窓会会場「高瀬川二条苑」
参加者 四十七名
二次会会場「てんや」
参加者 三十一名
ルネッサンスツアー
参加者 二十七名

熊高一年時の関西修学旅行から五十周年を記念して、当時と同じルートを観光しようと計画し、合わせて京都にて同窓会を開催しました。



嵐山渡月橋前

四五会会員の近況報告等

孫娘と伊勢参り

今年の九月、二十一才になる孫娘と伊勢神宮に参ってきました。天照大神様に健康と長寿を祈願し、私が元氣な内に、ひ孫を抱けますようにとお願ひしてきました。お参りの後は、毎日がお祭りのような賑やかさがあふれる門前町のおはらい町とおかげ横丁を歩きました（飲み歩き）で楽しかったです。良かったです。



孫娘と乾杯

「近況報告」 会社は長男にバトンタッチしましたが、私も元氣な内（又は元氣の為には現役で建築設備設計を続けようと思っています。）

（九室 木村 秀崇）

福岡にてクリニック開業

福岡で二〇〇四年五月にクリニックを開業以来、日々呼吸器専門の診療を続けております。木曜・日曜・祝日以外は九時～一四時と十七時～二〇時の時間帯で診療しておりますので、同窓会等なかなか出席することができず失礼しております。趣味は、若い頃は柔道・空手でしたが、最近では専ら、かき釣り（筏、団子、チヌ狙い）です。なるだけ長く診療を続けるために、筏の上で過ごす時間を楽しみながら、ストレスを解消しております。（七室 松本 法親）

ジュッセルドルフでばったり!

三年八室の江上眞一です。熊大クラブは自動車部卒業後プラントエンジニアリング業界で五〇年です。今も古巣で設計基準の見直しなどやっています。海外プラント建設に始まり、国内では原子力廃棄物処理設備、国内初のガスタービンエンジン環境試験設備、国内初のガスタービンエンジン環境試験設備、コヒーレント燃焼設備などの建設に取り組みしました。振返れば私にピッタリの仕事で、苦しい時もありましたが達成感でいっぱいでした。お客様に喜んでいただくという仕事の目標があったからでした。（八室 江上 眞一）



レポーター近影

あるジュッセルドルフの雨の夜1年5室級友の西純一さんと熊高卒業25年ぶりにばったり会ったときは、互いにオーとびっくりでした。今から二十年ほど前の話です。（八室 江上 眞一）

忘れたくない訓え
一年五室の担任の谷口昌平先生は部活の顧問でも

あった。熊高演劇部は既成の台本ではなく部員の創作を演じるのを伝統としていた。入部した年の図書館ホールでの県大会では二年生の作品が高い評価を得た。翌年は私が脚本担当になり、逃げ出したくなるのを我慢して何とか仕上げた。結果は市内のブロック予選で敗退。前年度の不条理劇「サムシング・ナッシング」に比べ「ピエロの涙」というタイトルからして幼い。稽古場に現われても特に指導もされなかった谷口先生が大会後ボツリと言「君の書いた物は街には無いが」。

東海江原会の幹事長!

会社を退職してからも、東海江原会の幹事長を八年以上やっています。コロナ禍でしたが、今年三番りに、五月に東海江原会総会・懇親会を開催することができました。準備作業や会の運営で忙しい日々でした。会のゴルフコンペは年二回行っています。（私が最年少）また、来年一月発行する会報の編集作業を行っており、これから発行に向けての作業が続きます。会社のOB会の世話役もやっており、三年ぶりのOB会（十一月）の準備もしているところ。やたらと世話役の仕事が集まってきました。日常はほぼ毎日ジムで一時間運動をして、温泉に入り、帰ってから焼酎の炭酸割を飲んでいきます。（九室 山下 司）



福岡県朝倉市で内科クリニック開業

福岡県朝倉市で内科クリニックを開業し二四年になります。本年は七月八日にコロナの第8波が嵐のようにおしよせ4回目のワクチン接種と重なり大変でした。医師会では学術担当理事で講演会の座長をして全国の著名な先生方との交流ができました。とりわけ熊高出身の先生方はフレンドリーで先輩では糖尿病の第一人者である順大の河盛隆造先生、同級生では弘前大の前教授である奥村謙君（不整脈の権威）は甘木の地に脈も足を運んでくれ後輩では東大出身の徳島大の佐田政隆循環器教授は遠方から二回も来て頂きました。熊本市市民病院の橋本洋一郎先生も脳卒中連携について何度も講演して頂きました。本当に感謝しています。五〇周年の成功をお祈りします。（五室 松崎 雅）

